

## 北海道釧路湖陵高等学校（管理機関：北海道教育委員会）

## 【Ⅲ期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

**2 中間評価における主な講評****① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 課題研究と探究活動の発表会と同日に運営指導委員会を開催し、生徒の研究と探究の質について指導・助言を受ける形で実施していることは、評価できる。
- 生徒アンケート評価について、専門家の協力を得ていることは、評価できる。
- 卒業生の活躍状況は良好であり、評価できる。
- SSHの実施により教員の意識の変容が見られていないため、改善が必要である。
- 能力保有感自己評価アンケート・自己効力測定尺度の結果について、成果と課題の分析・検証が適切に行われていないため、改善が必要である。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 能力保有感自己評価アンケート・自己効力測定尺度による調査などを行っている点は、評価できる。
- コンソーシアムの構築など、外部の研究機関等の参加は、評価できる。
- 普通科・文理探究科の生徒の発表会やコンテスト等への参加数の増加は、評価できる。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 釧路の地元密着型の研究を、大学の協力を得ながら進めていることは、評価できる。
- 特定の領域について高い興味・関心をもつ生徒や、探究のプロセスを地道に積み重ねた生徒がさらに高いレベルへ挑戦する活動を支援する「Eプラン」の実施は、全体のレベルを引き上げる取組であり、評価できる。

**④ 成果の普及等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 「探究活動・課題研究 参考資料」など成果の公開について、改善が必要である。

## ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 課題研究や「理数探究」等の指導力の向上及び授業の改善・充実のため、「理数探究セミナー」を開催していることは、評価できる。

市立札幌旭丘高等学校（管理機関：札幌市教育委員会）

【I期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 数理データサイエンス科の学校設定科目である「SDS 探究」や「SS 統計学」などの研究開発を、学校が着実に進めていることは評価できる。
- 個々の生徒に対する評価を充実させ、適切に生徒へ評価結果をフィードバックし、生徒の資質・能力を一層向上させる取組を期待する。
- SSH 事業を通して育成を目指す生徒の資質能力を明確化し、それに応じた独自の評価方法を開発することが必要である。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 各教科・科目での SSH 事業に関連した取組が十分ではなく、充実が必要である。
- 教師の指導力の向上、授業スタイルの変化が見られたとあるが、具体的に何がどのように向上したのかを明示することが必要である。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 北海道大学や企業等との積極的な連携は、評価できる。

**④ 成果の普及等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 学校設定科目「SDS 探究」や「SS 統計学」について、具体的な実践事例を外部に発信することが必要である。

## ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 市立高校2校について、共通の学校設定科目を設置するなど、連携をさせていることは、評価できる。

【Ⅲ期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- SSH 指定校経験者などを採用し、人事面で充実を図るなど、推進体制を整えていることは、評価できる。
- 卒業生の追跡調査に関して、メーリングリストの作成の方法、連絡体制などの工夫について公開することを期待する。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 探究的な科目と通常科目の連携を組織的に推進し、教員の意識改革が進んでいることは、評価できる。
- 非認知能力を含む資質・能力を評価する手法として、質問紙法、メタループリック・標準ループリック法、未来創造アセスメントの3つの評価法を併用しながら、定量的なデータを用いて、生徒の変容やSSH事業の分析や検証を統合的に実施していることは、評価できる。
- 正解は一つに定まっている、という正解主義的な見方・考え方からの脱却を目指すという点は評価でき、その成果の公開を期待する。
- 正解主義ではなく構成主義（学べば学ぶほどわからないことが増えていくこと）が生徒に実感できるような教材の開発と配列を一層進め、
- 数学教師が課題研究を直接担当するなど、数学の課題研究支援についても期待する。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 道内を中心に、他校と連携しながら積極的に研究実践に取り組んでいることは、評価できる。
- 「未来創造探究フェスティバル」については、参加数の増加と、探究活動の成果を一層普及することを期待する。

- 国際性について、海外の高校との共同研究の基盤を構築するなど取組を進めているが、Ⅲ期ではさらに推進するとともに、その成果の学校全体での共有と、そのノウハウの公開が必要である。

#### ④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 学校設定科目「SS 未来創造」等について、授業内容等の共有・継承が積極的に行われていることは、評価できる。
- 本校独自の成果発表・交流会である Nichidai-Link Conference (NLC) は、生徒育成の価値が高く、評価できる。また、生徒用マニュアルの公開を期待する。
- 他校での活用しやすさの基準を明確にし、動画等の開発教材及び基準自体の公開を期待する。

#### ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 理事長が校長を兼務しており、指導・支援を積極的に行っていることは、評価できる。今後、系列高校へのより積極的な成果普及・発信を期待する。
- リーダー的教員が、正解主義的な授業や、探究の指導が分からない教師の授業の改善にどのように関与し、通常の授業と探究活動との往還を実現しているのかにも注目し、管理機関として支援することを期待する。

青森県立青森高等学校（管理機関：青森県教育委員会）

【Ⅱ期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 成果と課題の分析が生徒の自己評価を中心に行われており、改善が必要である。
- 卒業生の追跡調査が不十分であり、改善が必要である。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 地学が専門の教師がいない中で、地学に関する優れた成果を出していることは、評価できる。
- SSH事業を通して育成を目指す生徒の資質能力をより焦点化し、より具体的かつ明確にする必要がある。
- 課題研究と通常教科の連携が不明瞭であり、改善が必要である。
- 生徒の探究力を客観的に評価する手法の開発は、改善が必要である。
- 教師の指導力向上に関する取組が不足しており、改善が必要である。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 女子生徒の理工系進路を促すために、理系女子のコンソーシアムを設立し、理系女子育成プログラムが開始されたことは、評価できる。参加者の増加と、プログラムやその成果評価の発信を期待する。
- 地学が専門の教師がいない中、国際地学オリンピック日本代表を輩出したことについて科学技術人材育成の視点からの分析と環境の改善を期待する。

**④ 成果の普及等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 学内でのワークショップや他校の教員・生徒を対象としたワークショップの内容について、活用しやすい形でのまとめと発信を期待する。

## ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 管理機関の HP において、課題研究のテーマの公表だけでなく、域内外への探究活動の普及のための発信についても一層の工夫が必要である。
- 地学が専門の教師がないという点は、改善が必要である。

宮城県多賀城高等学校（管理機関：宮城県教育委員会）

【Ⅱ期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- SSH事業を通して育成を目指す生徒の資質能力を明確化し、カリキュラムマップを作成・活用することで、教科等横断的にコンピテンシーの伸長を図る体制を構築していることは、評価できる。
- 運営指導委員の指摘に的確に対応していることは、評価できる。
- SSH事業の長期的な効果を検証するために、卒業生の追跡調査の具体的な実施計画と成果の把握が必要である。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 地域での体験的な学びから得られた課題を課題研究に繋げる取組や、それを普通科へと拡大させる取組は、評価できる。
- 多くの教員が巡検の引率を行い、積極的に関わる体制をとっていることは、評価できる。
- 災害に関する課題を多角的に自分ごととして捉え、挑戦する実働型の科学的探究活動の多賀城メソッドの内容と成果について、域内外での活用しやすい形でのまとめと発信を期待する。
- コンピテンシーに基づくカリキュラムマップを3年間作成済みとのことだけに、カリキュラムマップ利用による授業改善への効果、教科連携での組織的な使い方、課題研究と通常の授業との連携の確認等についての具体的で組織的な評価と公開を期待する。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 他校と共同で巡検を行い、生徒同士の交流の機会を作っていることは、評価できる。
- 本校が成果発表の場として主催する3.11メモリアル“Re-Dit”ミーティングの継続的な開催によって、地域連携も踏まえて、SSH事業の成果が具体的にどのように進展し、波及効果を持つのかを引き続き検証することが必要である。

#### ④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 校内で蓄積されるデジタルデータやノウハウを、新任教員がスムーズに活用し、事業を継承する具体的な共有・研修体制の強化を期待する。

#### ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 管理機関の予算での SSH コーディネーターの配置による具体的な成果についてまとめ、公開することを期待する。

## 1 中間評価の結果

このままでは研究開発のねらいを達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の変更等の対応が必要と判断される。

## 2 中間評価における主な講評

### ① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- SSHを計画に従って進める中で、何が課題でどう改善するかなどを整理し、学校全体で共有して改善を図る必要がある。
- AIを活用した生徒の変容調査について、結果の分析が十分に行われておらず、調査の妥当性の評価も含め、見直しが必要である。
- アンケート調査や外部の評価手法だけでなく、ルーブリック等を活用し、生徒の変容について共通認識を持ち、次の展開に生かす必要がある。

### ② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- 教員研修として県外のSSH指定校の視察などを実施し、他校を参考にすることを期待する。
- 理科・数学以外の教科・科目との連携が図られておらず、改善が必要である。
- 課題発見のためには、通常の授業の中でも生徒の気づきを促すような取組を学校全体で実施していくことが必要である。
- 深い学びとするために、生徒自身が疑問を見出す活動を行う必要がある。

### ③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 秋田県立大学との連携は、評価できる。
- 連携する大学等にもメリットを感じられるような工夫を期待する。

#### ④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- HP に、教材やノウハウ、成果の他校での活用事例が掲載されておらず、改善が必要である。

#### ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 博士号教員の配置は評価できるが、そうした取組をより効果的に県全体に広げていくことを期待する。

山形県立致道館中学校・高等学校（管理機関：山形県教育委員会）

【Ⅲ期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 教員意識が着実に向上していることは、評価できる。
- SSH担当教員の負担軽減のために、担当教員を増員したことは、評価できる。
- OB・OG講演を実施していることは、評価できる。
- 実施したアンケートのデータのまとめが十分でないため、改善が必要である。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 学校統合があつたが、全校体制を堅持できていることは、評価できる。
- 物理・化学・生物・地学の4領域を見通していることは、評価できる。
- 自校で作成したループブックを活用していることは、評価できる。
- サイエンスサポーターという形で人文系との協働を推進していることは、評価できる。
- サイエンスサポーターの能力定義とマニュアルの内容を明確化し、広く普及させることを期待する。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 山形大学農学部との連携は、特定の研究室とのみの連携ではなく、組織的に連携が取れていることは、評価できる。70名前後の生徒全員が山形大学の教員から直接研究指導を受ける機会は貴重であり、かつ、教育内容や評価方法については高校側と共同で開発している点が評価できる。
- 部活動・セミナーなど多様な活動を展開し、受賞歴等も多数あることは、評価できる。
- 産業界との連携を期待する。

#### ④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- 致道ゼミ（探究）要旨集の作成や、各種発表会を実施していることは、評価できる。
- 本取組で得られた知見や方法の普及のために、より多くの学校が参加する発表会等の企画を期待する。
- HP への成果物や開発教材等の掲載など、成果の発信について改善が必要である。

#### ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- SSH 指定校同士の交流、大学との連携、事業管理の助力、県全体での発表会を開催するなど、様々に取り組んでいることは、評価できる。
- 評価ルーブリックなどの公開と普及が必要である。

## 1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

## 2 中間評価における主な講評

### ① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- IV期の学校として、これまでの成果を踏まえて、学校全体でSSH事業に取り組んでいることは、評価できる。
- ルーブリックを独自に作成・活用しており、フィードバックをかける際のガイドとしてしていることは、評価できる。

### ② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 全校の教員の協力体制がしっかりしており、SSHの指針が理数系に限らず全校に普及していることは、評価できる。
- 教員同士が連携しながら、生徒が自主的に活動できるようにサポートし、生徒の資質・能力の育成に努めていることは、評価できる。
- 探究の過程を詳細に分析し、独自の探究プロセスを設定し、細かくルーブリックとして位置づけていることは、評価できる。

### ③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 理工系女子生徒の育成のために、女子高生STEAMコンテストの開催や、他のSSH指定校との連携を継続的に実施していることは、評価できる。
- 生徒主導の探究活動のためには、さらに探究活動の幅を広げる連携先の開拓が必要である。

### ④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 県内外の高校への成果の普及に積極的であることは、評価できる。
- 開発した教材だけでなく、評価のためのルーブリックについても、多くの学校に広めることを期待する。

- 自己評価票の「生徒に寄り添う」について、より具体的な記述が必要である。

#### ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 高等学校の事例を基に県内の理数開設の充実を図る等、実際に事例を活用する学校を生み出すことを期待する。
- 本校の取組や成果を、県内の他の学校で活用することを推進する必要がある。

【Ⅲ期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 研究進捗の管理体制が、3年間丁寧に行われていることは、評価できる。
- 運営指導委員の指摘から、生徒が作成するポスターにおいて「先行研究」項目を作り、生徒指導に役立てていることは、評価できる。
- IB（国際バカロレア）教員と連携して課題研究支援を行っていることは、評価できる。
- SSHの実施による教員の意識の変容については、さらなる調査が必要である。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 数学・理科・英語・歴史の科目横断授業の構築は、評価できる。
- 個人課題研究について、生徒の意欲を活かしつつテーマ設定が適切に行われていることは、評価できる。
- 筑波大学の学生をTAで招くなど、外部の専門家等を利用した体制は、評価できる。
- 調査にあたって積極的に外部専門家に協力依頼を行うなど、意欲的な活動は評価できる。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 「collaborative sciences project」として、海外校との共同研究など、活発に活動していることは、評価できる。
- 海外の連携について、訪問や受け入れ等を積極的に行っていることは、評価できる。
- 多くの大学と連携していることは、評価できる。

**④ 成果の普及等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 「個人課題研究17才の卒論」が、SSHのHP内容として個別に見やすく掲示されていることは、評価できる。

- SSH の取組により開発した教材やノウハウについて、他校(SSH 指定校以外の学校を含む)における活用事例の収集が必要である。

#### ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 人的支援として、1年目から理科・数学の専任教員を新たに雇用したことは、評価できる。

栃木県立栃木高等学校（管理機関：栃木県教育委員会）

【Ⅲ期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 運営指導委員会が本事業に関して指導や助言を行える環境にあり、全体として運営指導委員会の機能が活かされていることは、評価できる。
- 個別の見取り方に依存せず、様々な対象のアンケートを実施し、そのデータ分析を徹底的に行なっている。評価法を確立し、新しい研究開発についての評価を客観的に行っていることは、評価できる。
- 今年度からの取組である「一人一実践」の事後評価と分析を行い、授業カリキュラムの開発につなげることを期待する。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 異なる教科の教員2名が一つの授業を行う取組について、効果を検証しながら進めていることは、評価できる。
- 上級生やOBによる指導を活かし、課題研究を活性化していることは、評価できる。
- 生徒が、教科科目を融合した学校設定科目を履修しない傾向があり、改善が必要である。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- マレーシアやタイの学校との連携を積極的に進めており、評価できる。

**④ 成果の普及等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- HPやデータベースを充実させ、生徒や他校の関係者もアクセスしやすい状態に整えていることは、評価できる。
- 他校への普及を意識した研修の受け入れを積極的に行っていることは、評価できる。

## ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 大学との接続など、管理機関として SSH 事業を支えていることは、評価できる。
- STEAM 教育推進コーディネーターを配置し、STEAM 教育を実施していることは、評価できる。

## 1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

## 2 中間評価における主な講評

### ① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 学校長を中心とした指導体制を確立し、学校の全職員で本事業に取り組んでいることは、評価できる。
- フィードバック中心の探究活動や必要な知識を能動的に生徒が手に入れる探究ポータルサイトの設定など、新たな取組とその検証を続けていることは、評価できる。

### ② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 「課題研究すごろく」の作成と改定、「探究ポータルサイト」の構築など、意欲的な取組をおこなっていることは、評価できる。高校生がどのように変容したのか、より具体的な生徒の能力の評価を行えることを明らかにすることを期待する。
- SSを付す科目の特色を再検討する必要がある。また、「SS探究」や「科学的探究Ⅲ」の履修人数が現在の規模でよいか検討が必要である。

### ③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 生徒の部活動が活発になっていることは、評価できる。
- 大学との連携により、生徒の探究活動の幅が制限されることがないように期待する。

### ④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 情報の共有に努めており、SSHの研究開発成果の発信に関しても充実した内容になっていることは、評価できる。
- 他校へ「課題探究すごろく」の活用を普及させており、ロールモデルとなっていることは、評価できる。

## ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 本校の成果の発信が、積極的に行われていることは、評価できる。

埼玉県立越谷北高等学校（管理機関：埼玉県教育委員会）

【Ⅱ期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 事前事後自己分析（PPSA）による検証について、妥当性について自己評価の検証が必要である。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- STEAM教育のAを、英語による発表に限らず取組を広げることを期待する。
- アウトリーチについて、下級生への説明に限らず取組を広げることを期待する。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

※コメントなし

**④ 成果の普及等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 教材について、早期の公開が必要である。
- 教材等を、他校で活用されることが必要である。

**⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

※コメントなし

## 1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

## 2 中間評価における主な講評

### ① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- Ⅲ期目の学校の取組として、本校の特徴・魅力を表に出した計画となることを期待する。
- 個々の生徒の評価結果をフィードバックし、個々の生徒の能力育成に結び付けるか等についての具体的な取組を期待する。
- 新たに作成した全体ルーブリックを積極的に活用し、課題研究の質を向上させることを期待する。
- SSH担当教員とそれ以外の教員の温度差が見られ、学校全体とした取組とする必要がある。

### ② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 総合的な探究の時間の内容を大きく変更し、「探究プロセス」を組み込んだ教育を普通科へ波及させようとする取組は、評価できる。
- 研究倫理の指導にも力を入れ、「松山高校 研究倫理ハンドブック」を作成したことは評価できる。
- 担当する教科・科目に関係なく、全教員がSSHの取り組みを通して生徒を育成しようという意識の共有が十分ではなく、改善が必要である。

### ③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

※コメントなし

### ④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- HPの公開だけに留まらない成果の普及が必要である。

## ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 本校の事例を基に県内の理数開設の充実を図る等、本校の成果を活用する学校を生み出すことを期待する。

## 東京都立立川高等学校（管理機関：東京都教育委員会）

### 【Ⅱ期3年目】のSSH中間評価結果について

#### 1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

#### 2 中間評価における主な講評

##### ① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 評価の負担の低減を図るため、学校独自の、本校の生徒に合わせた生徒の資質・能力の評価を指向し、その結果を分析することを充実させていくことを期待する。
- 立川高校コンピテンシー評価（Can Do リスト）の内容項目がやや多いので、精選をして生徒が使いやすいものにしていくことを期待する。
- カリキュラム・マネジメントによる教育課程全体の改善・深化の中で、授業改善がどのように進んでいるのか明示することが必要である。

##### ② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 課題研究などの指導について、教員間の指導体制の工夫によって、継続可能な体制ができていることは、評価できる。
- 授業改善の取組について、反転授業などを行うことによって生徒が身に付けた能力を具体的に示し、その成果を他校に広めることを期待する。
- 課題研究や探究的な学習活動で得られた成果を、各教科・科目における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に結びつけることについて改善が必要である。
- 「思考力、判断力、表現力等」の育成・評価に重点化しているが、「知識、技能」、「主体的に学習に取り組む態度」の評価も含めて、各教科での単元の指導計画における観点別評価との関係性についても明らかにすることが必要である。
- 普通科の第3学年のSS課題研究Ⅲ（自由選択）が開設できていない点は、改善する必要がある。

##### ③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 理数系部活動の参加者が増え、生徒たちの活動内容が充実していることは、評価できる。

#### ④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

※コメントなし

#### ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

○ 令和4年度より本校に創造理数科を開設するなど、理数教育を充実させる施策は評価できる。

【IV期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 自由研究の5つのカテゴリ（人文科学、社会科学、自然科学、芸術学、健康・生活学）ごとの代表生徒からなる自由研究推進生徒組織と自由研究担当教員、大学生TAが、情報共有や発表会の企画・運営を担っていることは評価でき、SSHの自走化に繋げることを期待する。
- 生徒の主体性への影響についての分析や結果の公開を期待する。
- 理系の女子生徒の増加を促す方法について明らかにし、結果や成果を公開することを期待する。
- 報告書や自己評価から教育効果が見えにくいので、成果として客観的に表現する方法について検討することが必要である。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 理数系の論理的思考力の涵養が多くの科目で可能であるように、独自のカリキュラムが取られていることは、評価できる。
- 文理融合、分野横断の教育に注力していることは、評価できる。
- 課題研究で行われているPHTワークショップ（Planned Happenstance Theory：境遇活用理論）について、他の学校でも活用しやすい形にまとめて発信することを期待する。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 学園内での中高大の連携や企業等との連携を行っていることは、評価できる。
- 理数系の部活動の取組が外部発表や受賞につながっており、評価できる。
- 国際共同研究について、実施するとともに実施に伴う課題やノウハウを公開することを期待する。

#### ④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 学校 HP の充実、出版、学術発表、他校の研修受け入れ、共同イベントの開催など、多角的なチャンネルを通じて積極的に外部へ発信していることは、評価できる。
- 「探究スタートアップポスターセッション」として、探究を指導する教員自身も発表者として参加し、生徒の探究の初期段階の成果を外部に公開することで、学外の参加者なども含めて多くの人からアドバイスをもらう機会を提供していることは、評価できる。探究の初期段階の不安を解消し、生徒の非認知能力の育成に寄与していることを実証し、成果として公開することを期待する。

#### ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 管理機関の綿密なフォロー体制が築かれていることは、評価できる。
- 研究倫理に関する大学部門との連携により、高校生の課題研究の倫理審査についてシステム化することを期待する。

## 1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

## 2 中間評価における主な講評

### ① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- コンピテンシーベースの評価について、生徒の変容を適正に評価する手法となるようさらなる開発を期待する。
- 探究活動の成果が他の授業科目に良い波及効果をもたらすよう、教員のさらなる意識改革が必要である。
- 「課題研究や探究的な学習活動を通して育成を目指す生徒の資質・能力についての評価手法の開発」の評価について、明確にすることが必要である。
- 理系進学率の向上に向けて、生徒の進路決定時期に応じた教育課程の編成、実施を行う必要がある。

### ② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 中高一貫の特性を生かし、中学3年から高校3年までの学習段階に沿ったカリキュラムを展開し、成果を挙げていることは、評価できる。
- 「数学で読み解く現代社会」における取組は、文系対象の取組として評価できる。
- 学校設定科目「Project in English for Science」において実践的な独自の英語教育を行っていることは、評価できる。
- 授業とイベントや、授業と課題研究等、カリキュラムを繋げていくことで、生徒の資質・能力の育成に寄与することを期待する。
- 科学技術系人材の育成に向けて、中3「教養総合基礎」、高1「教養総合Ⅰ」による探究型学習の深化を期待する。

### ③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 附属高校という強みを生かし、大学との連携の元に探究活動の深化を図っていることは、評価できる。

- 海外フィールドワーク、英語研究発表会、海外高校生との研究発表交流等、国際性を高める取組を積極的に実施していることは、評価できる。
- 東京農工大学の教職課程の学生との連携により、課題研究の充実に繋げることを期待する。

#### ④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 生徒により組織された「SSH 委員会」により企画運営される校内 SSH 成果発表会が実施され、役職の取り決め等に工夫がなされていることは、評価できる。
- HP で公開している成果物を他校でも活用してもらい、フィードバックを受けることで教材のブラッシュアップを図っていくことを期待する。

#### ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 報告書にある分析結果を活用して、大学との連携により理系人材の育成に結び付ける取組を実施することを期待する。

【Ⅱ期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

このままでは研究開発のねらいを達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の変更等の対応が必要と判断される。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- 全校的な取組となっておらず、改善が必要である。
- 運営指導委員会からの意見を踏まえ、課題研究、探究活動の内容の修正を行うことが必要である。
- 課題研究について、高校3年間でどのような資質・能力を育成するのか明確にする必要がある。
- 生徒の能力の進展や変容の評価方法が構築されておらず、改善が必要である。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- 課題研究について、6年間を通した体系的な学習となるようにする必要がある。
- クロスカリキュラムの実施が進展しておらず、改善が必要である。
- 教員の指導力向上に向けて、説明会を行うだけでなく、授業公開や継続的な研修など、さらなる研鑽を盛り込むことが必要である。
- 生徒の自主性に対応できるよう、教師の指導力の向上が必要である。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 大学等との研究連携については、さらに連携先を増やすことを期待する。
- 卒業生の探究課題への関与は評価できるが、教師との役割分担について検討することが必要である。
- 理工系女子の育成という観点で、プログラムの独自性や特徴などが明確になる企画や内容を検討し、実施することが必要である。また、女子生徒の理系に関する意識などが変容したかを明らかにする分析が必要である。

#### ④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 自己評価票にも記載があるように、成果の発信がどのように波及しているか、どのように活用されているかについて、把握することが必要である。

#### ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の大部分が達成されておらず、抜本的な見直しを要する】

- 管理機関として、学校全体として事業を実施するために、人的支援、物的支援や教師の指導体制の充実などを行う必要がある。

神奈川県立小田原高等学校（管理機関：神奈川県教育委員会）

【I期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- SSHに関する研究開発の統括として研究開発グループの設置や、ICT活用による進捗把握など、工夫して取り組んでいることは、評価できる。
- 計画を微調整しながら進め、運営指導委員会からの指摘も踏まえ改善していることは、評価できる。
- 評価について、ルーブリックにもとづく評価や本校独自の評価指標の開発を期待する。また、SSH開始前後の比較についても期待する。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 生徒の変容を捉え、情報を共有しながら進めていることは、評価できる。
- 生物部と物理部の統合、コンテストでの優勝など成果が出ていることは、評価できる。
- 学校設定科目「Odatech」以外に、教科間連携が広がることを期待する。
- 「SSHの展開と共に、理系・文系に思考が分断される」等の報告書での指摘について、抜本的な対策が必要である。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 大学、自治体、地域企業、他校と連携していることは、評価できる。
- 今後は、生徒の研究成果を発信したり行政サイドに提案したりすることを期待する。

**④ 成果の普及等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 教材の公開数を増やすなど、着実に進めることを期待する。
- 発表会について、他校と連携して開催していくことを期待する。

## ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 環境面支援として機材充実、研修の機会充実、教員数増加などの人的支援、各地域での普及、横展開の充実、SSH 指定校等による探究フォーラムを開催するなどの取組は評価できる。
- 今後、SSH 指定校以外への普及を期待する。

神奈川県立希望ヶ丘高等学校（管理機関：神奈川県教育委員会）

【Ⅱ期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

このままでは研究開発のねらいを達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の変更等の対応が必要と判断される。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- 外部メンター制については、教師の役割との整理が必要である。
- 運営指導委員会の助言を効果的に生かしていくことが必要である。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- 理数系以外の科目で統計的な手法を取り入れる指導、理数的視点を加えた授業展開は評価できる。
- 他校で活用可能な教材等の開発を期待する。
- ルーブリックについて、9割がA評価となるという設定については見直しが必要である。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- 外部との連携では、連携先もメリットを感じられるようにすることを期待する。
- 他校との連携を進めることが必要である。

**④ 成果の普及等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- 学年合同の発表会、オンラインプラットフォームによる情報共有は評価できる。
- 生徒が学会等で発表することを期待する。
- 他校等と連携した発表会の実施を期待する。

- HP による成果や活動の発信については、利活用されやすいように改善することが必要である。

#### ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 環境面の支援として、機材充実、研修の機会充実、教員数増加などの人的支援、各地域での普及、横展開の充実、SSH 指定校等による探究フォーラムを開催するなどの取組は評価できる。
- SSH 指定校以外への普及を期待する。
- 本校の SSH の実施に関し、環境面の支援にとどまらない全体的な関与が必要である。

新潟県立新発田高等学校（管理機関：新潟県教育委員会）

【Ⅲ期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- SSHを推進する「探究部」には、理数科以外の教師も入り学校全体で取り組んでおり、評価できる。
- 運営指導委員会のコメントに対して改善を行っていることは、評価できる。
- 2年生で統計の授業を充実させて、課題研究に活用できるように改善したことは、評価できる。
- 課題研究について、生徒のヒアリング等を実施し、教員の指導・助言の要点を整理してその後に生かす取組は、評価できる。
- 外部評価である「学びみらいPASS」の結果の吟味や妥当性の検討が必要である。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 理系教科の教員と文系教科の教員が、全校体制で課題研究を進めていることは、評価できる。
- 学校全体で探究型のカリキュラム開発が進められ、理数科での成果を学校全体に広めようと取り組んでおり、英語での発表も定着していることは、評価できる。
- テキストマイニングにより、感想からキーワードを抽出し授業改善を行っていることは、評価できる。
- 先行研究検索エンジン等の紹介教材は、評価できる。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 科学部の活動については活発に行われており、成果が出ていることは、評価できる。
- 理数科2年生を対象に海外研修を実施し、現地の高校生との交流では英語で課題研究を発表しており、校内では全校生徒を対象に英語での発表会を実施していることは、評価できる。ただし、質疑応答については課題となっているため、改善を期待する。

#### ④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 他の SSH 指定校や海外校を交えて課題研究発表会行うなど、普及・啓発に意欲的に取り組んでいることは、評価できる。

#### ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- SSH 指定校 5 校と、スーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定校等も交えて連携委員会を組織し、情報共有や意見交換の場を設け、連携体制の強化を図っていることは、評価できる。
- 管理機関が、県内の SSH 指定校の取組と成果を「新潟県課題研究ライブラリ」として他校でも活用できるように整備していることは、評価できる。

新潟県立長岡高等学校（管理機関：新潟県教育委員会）

【IV期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 「企画班」、「広報班」、「検証班」を設置し、全職員体制でSSHに取り組んでいることは、評価できる。
- 評価方法については、自前の方法の開発と評価結果の分析の改善を期待する。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 理数科、普通科ともに、課題研究を中心にした教育課程が実施されており、評価できる。
- 普通科については、3年間を通した課題研究とする必要がある。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 教員に加えて長岡技大の教員がアドバイザーに入るなど、連携が強くうまく機能していることは、評価できる。
- 地域の中学校の教員等との連携や、出前講義、県内の他の高等学校との連携は、評価できる。
- 高大連携講座を実施したり、県内のSSH指定校の研究発表会を行うなど、地域・大学との連携が活発であり、評価できる。

**④ 成果の普及等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- HPで学校におけるSSHの取組をわかりやすく発信していることは、評価できる。
- 本校の教員研修に他校の教師も参加するなど、普及に向けた取組は、評価できる。
- 理数科と普通科の選択段階にある中学生に向けて、SSHの取組を説明するHPや公開講座の取組を期待する。

## ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 県内の SSH 指定校や SGH（スーパーグローバルハイスクール）指定校のネットワークを構築し、情報交換や発表の機会を設けるなど、管理機関として SSH の取組の支援を行っていることは、評価できる。
- 新潟県課題研究ライブラリの公開を始めたことは評価できるが、掲載内容のチェックを学校任せにしないなど改善が必要である。

福井県立武生高等学校（管理機関：福井県教育委員会）

【IV期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

優れた取組状況であり、研究開発のねらいの達成が見込まれ、更なる発展が期待される。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 管理体制について、校内の全教員が関わる体制を構築すると同時に、全クラスの高校生を含めた委員会も形成され、学校全体でSSHを推進しようとする機運が感じられることは、評価できる。
- 生徒にSSH行事の主体的な企画・運営を促していることは、評価できる。
- 独自の評価方法であるTKFアナライザーを用いて、定量的に成果の分析が行われていることは、評価できる。
- 運営委員会について、積極的に活動に関与し、指導、助言が行われており、それを踏まえ改善していくことを期待する。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 課題研究のカリキュラムについて、3年間を通じて、探究進学科、普通科とも課題研究、探究活動を進めていくように計画されており、その中身も段階ごとに明確に設定され、それぞれのねらいが明確となっていることは、評価できる。
- 教科横断型授業を多数開発し活用していることは、評価できる。
- 指導体制について、校内の全教員だけでなく、企業や大学の研究者・OBなど各種外部人材が適切に活用されていることは、評価できる。
- 課題研究、教科横断型授業、一般教科の往還の質を上げていくことを期待する。
- 自己評価が低い生徒に対する指導の充実が必要である。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち、特に程度が高い】

- 多くの外部機関の特性を分析し協力を得ていることは、評価できる。

- 課題研究における大学、企業の研究者との連携を、生徒が主体になって継続的に活用できる状況が整えられており、研究連携も順調に進んでいることは、評価できる。
- 国際的な取組について、単なる交流でなく共同研究など充実していることは、評価できる。

#### **④ 成果の普及等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち、特に程度が高い】

- 評価モデレーションを海外の大学にまで広げようとしていることは、評価できる。
- 成果の発信が、県内の高校・中学校などに対して幅広く行われていることは、評価できる。
- 多くの視察を受け入れ、かつ研修の講師を派遣し、成果の普及を強く進めていることは、評価できる。

#### **⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 管理機関として、適切な指導や助言が物的にも人的にも行われていることは、評価できる。
- 研究発表会の開催を介して、学校間の交流や、高校生同士の交流を促し、かつSSH指定校の開発成果の普及を促進させていることは、評価できる。

愛知県立豊田西高等学校（管理機関：愛知県教育委員会）

【Ⅲ期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 評価シートを開発し、スクールポリシーとリンクさせながら全教職員で共有し改善に努めていることは、評価できる。
- 自己評価と他者評価を組み合わせることで、多面的な評価を実施している点は評価できる。これらの評価結果を生徒の振り返りのみならず、教員の指導や取組改善にどのように活用できるのかをまとめ、広く発信することを期待する。
- 課題研究委員会が課題研究の指導案の審議を通して指導案等を作成し、指針の具体化を進めている点は評価できるが、担当する一人一人の教員も課題研究の指導案を作成できるよう、指導力の向上が必要である。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 課題研究の系統的指導を研究の中心に位置づけ、3年間を見通したカリキュラム編成と指導を行っていることは、評価できる。
- 研修が計画的に実施され、赴任してきた教師の多くが指導力の向上を実感していることは、評価できる。
- ハッシュタグ型の学びのシステムによって、文理融合の課題研究になることのプロセス（例えば、生徒はどのようにハッシュタグを設定するのかなど）を詳細に記述し、他の高校でも活用できるシステムとなることを期待する。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 地域性を生かし、産学公との連携を強力に進めていることは、評価できる。
- 積極的に外部連携をしており、ある程度生徒の興味関心に応じた専門家を招聘している点は評価できる。生徒の興味関心に応じた指導・助言となるよう、外部連携を広げていくことを期待する。

- 外部人材との産学公の連携を一層推進するための校内の「連携コーディネーター」について、生徒の要望ではなく、先に人材ありきとならないようにする必要がある。

#### ④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 豊田・みよし地区探究活動発表会、近隣の県立高等学校や福島県立安積高等学校との相互研究発表など、域内外での成果普及が行われていることは、評価できる。
- SSH の取組やノウハウを地域内や県外に発信する必要がある。

#### ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 県内の SSH 指定校を幹事校として協議会をつくり、SSH 指定校以外の理数推進校も加え組織的に展開していることは、評価できる。
- 管理機関の HP で、県内指定校の課題研究等の成果を、学校を超えて整理し、域内外の高校での探究活動に資する資料とする必要がある。

愛知県立半田高等学校（管理機関：愛知県教育委員会）

【Ⅲ期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 運営指導委員会からの助言を受け、アントレナープレナーシップ教育に加え、チェンジメーカーセミナーを開設するなど、趣旨を変えて生徒がチャレンジする精神を多角的に育む工夫は、評価できる。
- チェンジメーカーセミナーを通して、失敗を恐れず新しいことに取り組む姿勢を涵養することと、トップサイエンティストとして意欲の高さを定義・評価することの両立は評価できる。
- アントレプレナーシップ教育を高校教育としてどう位置づけるか検討することを期待する。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 国語科、社会科の授業の中で課題発見力や課題表現能力を身に付ける工夫が取り入れられ、理数系科目以外を担当する教員も含めた授業改善がなされていることは、評価できる。
- 科学技術とアントレプレナーシップの評価指標の違いについて、考察することを期待する。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 産学双方との連携が密になされ、部活動・セミナーを積極的に行い、受賞歴もあることは、評価できる。

**④ 成果の普及等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 実施したプログラムについて項目ごとに資料が公表されており、どのような内容が行われたのかが明示化されていて分かりやすい点は、評価できる。

- 多学年合同の発表会の実施や論文の冊子化をし、また成果の普及発信に取り組んでいることは、評価できる。
- 他校での活用事例を把握して改善することを期待する。

#### **⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- SSH 指定校等の他、研究機関との調整や、全県立高校に参加を促す発表会の開催、県教委の HP に情報を掲載し普及の助けとしているなど、様々な取組を行っていることは、評価できる。
- 教員研修として「探究留学制度」を行い、SSH 指定校の取り組みを県内全体の理数教育の充実に広げていることは、評価できる。

三重県津高等学校（管理機関：三重県教育委員会）

【IV期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 生徒の資質・能力の育成に関する評価について、より具体的に包括的にできるものを構築することを期待する。
- 報告書のアンケート結果などから、学校全体の取組とは認められず、改善が必要である。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 校長自らの積極的な取組が、生徒の意欲を高めるうえでも貢献しており、評価できる。
- 上級生が下級生に探究活動の理念や取組手法を伝える場を設定し、直接的に成果を継承しようとしていることは、評価できる。
- 学校設定科目「SS探究活動」の3年間のカリキュラムの他、一般教科においても、体験的な活動を多く取り入れ、生徒主体で理数系の思考を育成するカリキュラムが編成されていることは、評価できる。
- 生徒による自主的な発表会を多数開催していることは、評価できる。
- 8校連絡会を形成し、SSHをより良いものにするための情報交換を行なっていることは、評価できる。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 研究の連携先として、主要な大学だけでなく、地元の企業等と連携し、多岐にわたる分野で充実したプログラムが複数展開されていることは、評価できる。
- 連携している大学が招聘した留学生を活用していることは、評価できる。

#### ④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 県内の高校生の課題研究発表会である「みえ探究フォーラム」をはじめ、高校生による成果を中学生や他校へ普及、啓発しようとしていることなど、地域還元がなされているとは、評価できる。
- 本校のSSHの成果が、他校や域内外の地域でどのように利活用され、どのような効果が出ているのか、追跡する必要がある。

#### ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- みえ探究フォーラムや、課題研究の指導方法や評価方法に係る研究協議会である「探究コンソーシアム」など、県独自の仕組みにより、探究活動の充実を図ろうとしていることは、評価できる。

三重県立四日市高等学校（管理機関：三重県教育委員会）

【Ⅲ期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 校長のリーダーシップの下、「SSH推進委員会」等が効果的に機能していることは、評価できる。
- 卒業生の追跡調査など、長期的な成果の分析に取り組んでいることは、評価できる。
- クラウドファンディングで資金を調達している点は、評価できる。
- 理系進学率の上昇や、理数系部活等で安定して受賞者が出ていることは、評価できる。
- 「探究活動」についてのルーブリック評価は、各年度で見直したり、改善することが必要である。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 1年間かけて研究テーマを決め、研究倫理の指導を行うなどのカリキュラムについて、準備段階を周到に行っていることは、評価できる。
- ねらいに沿って生徒に資質・能力が育成できたかを評価できるよう、担当教員の専門性や教員間の連携を活かし、学校設定科目を設定する必要がある。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 地元の企業との連携について、商工会議所との結びつきや企業間連携をうまく活用し、社会実装された科学技術を生徒が学び研究を深める機会が構築されつつあることは、評価できる。
- 国際性を高める取組は学校内外で多くなされているが、視察や交流に留まっているため、踏み込んだ協働的な活動を期待する。
- 地元の企業とも連携した取組は、将来的にも学校の強みとなることが期待できる。
- 大学や企業との連携は図られているが、これらが生徒の探究活動にどのように結び付いているのか、教員側で検討することが必要である。

#### ④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 全員参加の研究発表会を行っていることは、評価できる。
- Web サイトの構築、発信は機能しているが、そのフィードバックの検証が必要である。

#### ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 人事の際にエントリーシートによる人事異動制度を活用していることは、評価できる。

## 1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

## 2 中間評価における主な講評

### ① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 資格取得によらない、本校独自の指標の検証が必要である。

### ② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 理数の理論と実践の往還を目指したSTEAM科目群の設定と実施は特徴的であり、評価できる。
- 各種コースを設定し、理数系以外の科目との連携を主に統計手法に関する内容で行うことで、生徒主体の活動も生じてきたことは、評価できる。
- 指導体制について、理系・文系教科を問わず、複数教科の教員がチームで行っていることは、評価できる。授業公開やクロス授業としての研修は一定の成果が見られているが、課題研究における指導についての研修など、全体的な研修を期待する。
- 課題研究において、理数系のテーマが増えることを期待する。
- 学校内での教員相互の共有はできているが、肝心の高校生への成果の共有が図られておらず、改善が必要である。

### ③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 金沢工業大学との連携は、継続的に、かつ発展できるようなプログラムとなることを期待する。
- サイエンスツアーが単なるイベントとならないよう、科学技術の探究への関心やテーマ発掘につながるようなものとなることを期待する。
- 部活動や科学コンテスト等への参加に対する支援を期待する。
- 理系女子を謳った企画に限らず、他の企画についても、参加人数の変容データ分析が必要である。

#### ④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- HP への成果の掲載やリーフレット発行など、普及に努めていることは、評価できる。
- 成果発表会等以外で、成果の共有を検討することが必要である。
- 普及については、他校での活用可能性について、確認を進めることが必要である。

#### ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 財務的支援を含め、包括的な学校支援が行われており、評価できる。
- 他の工学系の高校との交流についての支援を期待する。

【Ⅲ期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 各種委員会を設定し、それぞれの課題解決や進捗について定期的に情報共有が行われていることは、評価できる。
- 成果や課題についての各種アンケートの分析を踏まえ、全学的に、理数教育の充実を図るための方略を検討することが必要である。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 文理を分けないカリキュラムは、教科横断や文理融合という面で特色があり、評価できる。
- 校内の発表会やプルーフの実施形態など、学校内での生徒間での成果の普及が着実に行われていることは、評価できる。
- 理数を中心とした課題研究を充実するためにも、学校設定科目「プルーフⅡ」、「生命論」、「環境論」の選択者が増えていく方略を検討することが必要である。
- 評価基準・価値軸について、本校独自の評価の開発が必要である。
- 文系進学者の理数系科目への興味・関心や導入など、目に見える評価があると他の高校への参考になる。その点で、評価方法や分析方法など検討が必要である。
- 教員の指導力向上に関して、教員相互の研修などをより充実させることが必要である。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 国際的な取組について、共同研究などが充実し、進学先として生徒が選択するなど、成果が表れていることは、評価できる。
- 課題研究を中心に、大阪教育大学をはじめとして研究の連携が図られていることは、評価できる。連携の仕方の工夫と、進学後の連携などの連携の質を高めることを期待する。
- どういうことに留意して海外研修に参加するとよいかを言語化して共有することを期待する。

#### ④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- SSH 指定校以外の学校への普及については、今後生徒間の交流などにより実現させることを期待する。
- 教育実習におけるノウハウの伝達を期待する。
- 学校として、開発した教材やカリキュラムに関する成果普及や公開などが見られず、改善が必要である。

#### ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 附属学校ということもあり、さらなる大学連携の強みを引き出すことを期待する。
- SSH 指定校以外の学校への普及を期待する。
- 大学との支援チームの発表会などでの助言だけでなく、普段の研究や授業、教員の研修など、学校全体の計画実施に関わることを期待する。
- SSH コーディネーターの設置に対して、どのような効果や成果が見られたか明らかにする必要がある。

大阪府立大手前高等学校（管理機関：大阪府教育委員会）

【IV期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 様々な評価手法を活用して生徒の変容を捉えようとする試みは、評価できる。
- 数学に特化した取組など、明確な特色と共に進めていることは、評価できる。
- 他者評価といっても感想やアンケートであり、より客観的な評価方法の模索が必要である。
- 教員の意識調査について、より積極的な取組が必要である。
- 採択時に指摘されている女性の運営指導委員としての登用について対応されておらず、改善が必要である。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 本校の強みである数学に特化した教材開発の発展は、評価できる。
- 指導力向上のための取組が積極的に行われていることは、評価できる。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 大学や研究機関、地域、他のSSH指定校などと積極的に連携していることは、評価できる。
- 数学分野に特化した取組が特徴的であり、中学生へ体験教室を開催するなど、地域への普及が図られるような活動は評価できる。
- 国際的な取組にも力を入れていることは、評価できる。

**④ 成果の普及等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 教材の公開や論文発表など成果の普及には務めているが、公開している教材や成果が他校で活用されるための工夫が必要である。

## ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 指定校任せにするのではなく、管理機関として主体性をもって管理や支援を行う必要がある。

大阪府立高津高等学校（管理機関：大阪府教育委員会）

【IV期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 文理融合型の探究学習を積極的に進めていることは、評価できる。
- SSHの取組が生徒の向上心をかきたて、学校運営にもプラスに働いていることは、評価できる。
- 理系への進学率が高いことは、評価できる。
- ルーブリック評価の弱点を補う評価方法の開発を期待する。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 学校設定科目「LCⅠ」、「LCⅡ」、「LCⅢ」について、教員が段階的に担当する仕組みや複数の教員と一緒に講座を担当するように仕組みを整える等、効率的かつ効果的な取組になっていることは、評価できる。
- グループ活動における個人の活動を評価する独自の取組を行っていることは、評価できる。
- 統計やプログラミングに着目した独自の教材開発は、評価できる。
- 自己評価シートを用いた評価について予備的な成果が出ているので、引き続き、改良を期待する。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 他校との連携を積極的に進めており、地域のリード校としての役割を果たしていることは、評価できる。
- 大学との円滑な連携を進めていることは、評価できる。
- 1年生の職場訪問と2年生の研究室訪問で進路を考えるきっかけを作っており、訪問先との連携がよく取れていることは、評価できる。
- 卒業生の講演会「高津クリエイトラボセミナー」を開催する際、同窓会の協力が得られており、評価できる。

#### ④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 成果の普及に対し、フィードバックを得る仕組みを整えていることは、評価できる。PDCAに組み込み、取組へ反映されることを期待する。

#### ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 指定校任せにするのではなく、管理機関として主体性をもって管理や支援を行う必要がある。

大阪府立四條畷高等学校（管理機関：大阪府教育委員会）

【Ⅲ期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 学際分野の探究活動は、現状統計手法の導入にとどまっており、今後はテーマ設定から学際の視点を取り入れる取組を期待する。
- 北河内サイエンスデイの参加校について、校数と質のバランスを検討することを期待する。
- 実施報告書のアンケートの肯定率と満足度の点数の関係を明確にする必要がある。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 既存の理数系分野だけでなく、社会科学的なテーマを扱う学際分野を取り込み、統計学を活用していることは、評価できる。
- 分野を問わないようにルーブリックの統一も行われたことは、評価できる。
- ICT ツールの導入など、新しいことに積極的に取り組んでいることは、評価できる。
- 卒業生の活用が比較的スムーズに進んでいるため、引き続き、外部人材による活性化を期待する。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 地域的な活動により他校との交流を深める取組は、評価できる。
- 北河内サイエンスデイの開催は、同じ地域の他校へSSHの取組の効果を広げる取組として評価できる。
- 北河内サイエンスデイの参加校を募る努力もされており、地域の理数系教育の普及向上に役立っており、評価できる。

#### ④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 授業資料等の成果物を HP で積極的に公開し、その活用についてもサポートし、意見交換も行われていることは、評価できる。
- 「探究チャレンジⅡ」を通年で授業公開していることは、評価できる。

#### ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 指定校任せにするのではなく、管理機関として主体性をもって管理や支援を行う必要がある。

大阪府立富田林高等学校・中学校（管理機関：大阪府教育委員会）

【Ⅱ期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 校務分掌として、中高教員が所属する「SSH部」を設置したことで、変化が表れ改善が図られていることは、評価できる。
- 自己評価や他者評価など、複数の評価方法を活用しながら、生徒の変容を捉えようとしている点は評価できる。一方で、それぞれの評価方法との相関や評価項目の妥当性の検証が必要である。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 授業公開を外部にも広げようとする取組は評価できる。
- 中高の教員が相互に関与する体制は幅も広がり、中高一貫校の特色を生かしていることは、評価できる。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 「グローバル」をテーマに地域連携に力を入れており、地域企業からも協力が得られていることは、評価できる。
- 学校の取組が科学部の増員などに顕著に表れており、評価できる。

**④ 成果の普及等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 成果の広報だけに留まらず、他校で成果が利活用されるようにする工夫を期待する。

## ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 府立、国立、私立の SSH 指定校や SSH 経験校を中心としたサイエンス・スクール・ネットワークを構築し、大阪サイエンスデイの開催など、大阪府全体での連携や教育の充実化に向けて取り組んでいることは、評価できる。

兵庫県立龍野高等学校（管理機関：兵庫県教育委員会）

【Ⅲ期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 成果と課題を把握し、校長を中心に学校全体で取り組んでいることは、評価できる。
- 運営指導委員からの指摘事項についても、それらをもとに改善し着実に研究を進めていることは、評価できる。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 総合自然科学科の取組を普通科にも波及させるため、合同で意見交換する場を設けるなど、工夫改善しながら進めていることは、評価できる。
- 各教科・科目の特性を生かし探究活動につながるよう授業改善に取り組んでいることは、評価できる。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 自治体と連携し、地域の小中学校との連携を強めていることは、評価できる。

**④ 成果の普及等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- Web 上に教材等を掲載して他校と共有し、他校からの問い合わせに対応していることは、評価できる。

**⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 理数系が専門のALTを意図的にSSH指定校に配置するなど、人的支援を計画的に行っていることは、評価できる。

西宮市立西宮高等学校（管理機関：西宮市教育委員会）

【I期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

このままでは研究開発のねらいを達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の変更等の対応が必要と判断される。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- グローバル・サイエンス科だけでなく、学校全体での取組とする必要がある。
- 生徒の能力の伸長について、定量的評価方法が確立しておらず、改善が必要である。
- 運営指導委員会に評価の専門家を追加することが必要である。
- 独自の改善策を生み出すことに加え、他のSSH指定校の取組を参考にするなど、自校の課題の改善策を検討することが必要である。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- 全教員が連携、協力した指導体制となっておらず、改善が必要である。
- 指導や運営について、マニュアルを作成して組織的な指導体制を構築・運営することが必要である。
- 行事運営を生徒主導に変えたことによって、課題研究など具体的にどのように主体的になったかの評価とモデルの作成・公開が必要である。
- 生徒の探究力の育成にあたって、教師の指導力の向上やそのサポート体制について改善が必要である。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- 西宮市立総合教育センター附属西宮浜義務教育学校を中心に、高校生が小中学生の自由研究や課題研究に助言を行う継続的な交流事業を実施されており、高校生の参加数の増加や対象となる小中学校の拡大を期待する。

- 女子生徒の理数系進学について工夫した取組が行われており、その内容や成果が公開されることを期待する。

#### ④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- 古野電気株式会社との海洋に関する取組のプログラム開発について、そのプロセスや成果の教材化と公開が必要である。

#### ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 本校の事業実施上の課題に対し、管理機関として積極的に支援する必要がある。
- 本校の成果が利活用しやすい形で管理機関のHPに公開される必要がある。

奈良県立奈良北高等学校（管理機関：奈良県教育委員会）

【I期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 計画の進捗状況について、教員による推進体制、生徒組織も含めた委員会など、全校で共有しながら進められていることは、評価できる。
- 課題発見力の課題に対して、ポテンシャル発見アンケートを開発し、原因について明らかにしようとする点は評価できる。その結果からどのようにカリキュラム改善につながるか等を明確にして実施することを期待する。
- 理数系大学への進学率について、向上に向けたプランを計画することが必要である。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 3年間にわたって、理数科、理系・文系全ての生徒が探究を行っていくカリキュラムは評価できる。
- クラスに理数専門教員と担任・副担任が関わる指導体制は、評価できる。
- 指導体制について、大学の教員と連携して実施や研修を行っていることは、評価できる。
- 仮説のもと様々な科目が設定されているが、その仮説に応じた検証にすることを期待する。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 「奈良北おうちDEサイエンス」、「奈良北ちいきDEサイエンス」など、小学生・地域対象の取組は、評価できる。
- 産業界との連携は主に見学であり、より生徒がコミットするものになることを期待する。
- 外部連携による成果が課題研究などへ還元される道筋を検討することが必要である。

**④ 成果の普及等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 教員が多種多様な研究会に参加し、成果を発表していることは、評価できる。

- 校内での情報共有について、対面の会議だけでなく、ICT を活用して行われていることは、評価できる。
- 多数の資料が HP において公開がされていることは、評価できる。

#### ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 県内の他の SSH 指定校との会議を企画し、問題・課題共有を行うなど、情報交換、指導支援が行いやすい環境を設定していることは、評価できる。
- プラットフォームでの情報共有や、科技人材育成事業の推進などが行われていることは、評価できる。
- 成果のうち、何がノウハウとされ、他校でどう実装されたのか追跡することを期待する。

【Ⅲ期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- 理数系教員と学年団の取組としてではなく、全校的な取組とする必要がある。
- ルーブリックやアンケート、ポートフォリオを組み合わせる評価を実施しているが、その結果から資質・能力の変容の分析が不十分であり、分析方法について検討が必要である。
- SSH活動を進路選択やキャリア形成に明確に結び付けるプログラムや情報提供などが必要である。
- 卒業生組織「矢田の丘里山支援チーム」だけでなく、卒業生の追跡調査の実施が必要である。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- 特進コース文系選択者の3年生において、課題研究が教育課程上に開設されることを期待する。
- 文系生徒向けのカリキュラムについて、教科等横断的な取組をさらに進めるとともに、カリキュラムマップの作成や教員の指導力向上が必要である。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 部活動等、顕著な成果をあげているが、より多くの生徒が参加するよう取組の工夫が必要である。
- 近距離の国内研修である「奈良学ゼミ」や里山での炭焼き体験プログラムなど、新規の取組に意欲的であるが、不調に終わるケースについて分析し、課題を共有することが必要である。

#### ④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 広報担当スタッフを配置して、外部発信していることは、評価できる。
- 着手中の里山探究ガイドブックの作成・公開を期待する。
- 開発した教材などを、他校でも活用できるよう Web 上に掲載するなどの取組を進めることが必要である。
- 本校が主催する全国中高生環境活動フォーラムの参加校増加に向けて、より積極的な発信が必要である。

#### ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 学校法人としての大学との連携がほとんど見られず、管理機関における本校の SSH 戦略が、SSH 事業のガイドラインに沿って、特色ある開発として行われるように、積極的な指導と支援が必要である。

## 1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

## 2 中間評価における主な講評

### ① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 探究活動の取組が、学力向上や進学実績にもつながっていることは、評価できる。
- 運営指導委員会からの指摘についても誠実に対応しており、評価できる。
- 全国のコンテスト系の上位入賞者が多いなど、成果が確実に出ていることは、評価できる。
- 防災を軸として、各教科の中に落とし込むとともに、教科横断型授業（向陽防災 STEAM）を実施し、生徒の興味・関心を高めることができているため、先駆的な取組となることを期待する。

### ② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 防災意識が高い市民とリンクしている防災学習は、全国でユニークであり、評価できる。
- 環境科学科では、学校設定科目を含め、生徒にとっても興味深く、効果を高めていることが理解できるが、教科「理数」の探究活動とも連動させることを期待する。

### ③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 台湾の姉妹校との交換留学、国際防災デーへの参加などの国際活動は評価できる。
- 外部連携や国際性の取組が、探究活動や生徒の資質・能力の向上につながるような取組となることを期待する。特に STEAM 教育については、環境科学や防災と連動させた取組となることを期待する。

### ④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 成果の普及活動を和歌山県、近畿地方をはじめ、より広げていくことが必要である。

## ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 博士号を取得した人材を積極的に採用したり、SSH指定校に配置するなど、生徒たちの研究活動を推進したり、教員の研究指導力を向上させるような取組がなされていることは、評価できる。
- コーディネーターの適切な配置と活動について、検討することが必要である。

【Ⅱ期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- STEAM 融合型探究プログラムを策定・実施し、教員と生徒の変容をよく把握していることは、評価できる。
- 学校の規模の特性を生かし、生徒の情報活用能力の向上に特化した取組は評価できる。
- 「探究スキルラーニング」により育成された資質・能力の評価について、今後の分析を期待する。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 教員の共通理解が十分で、生徒を支援する体制が整っていることは、評価できる。
- STEAM というよりは IT に特化した教育であり、科目名とカリキュラムや教育内容の関係を整理することを期待する。
- 「探究の考え KATA」という教材を探究活動に効果的に活用する方法や活用することの効果について、明らかにする必要がある。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 学習プログラムの開発や評価システムの検討・開発で、企業との連携が充実していることは、評価できる。
- 社会実装とこれからの社会で活躍する人材を育てるという目標が明確であり、IT スキルが活かされる現場を視察・体験できるよう、綿密な連携をとっていることは、評価できる。

**④ 成果の普及等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 特色ある教育体制について、メディアへの発信が行われており、評価できる。
- 取組の成果の分析について、他校の参考になるような、わかりやすい発信を期待する。

- 作成教材の「探究の考え KATA」が他校でどのように活用できるのかなど、成果の普及に関連して、他校への支援についても検討することが必要である。

#### ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 管理機関全体の取組として管理体制がとれていることは、評価できる。

島根県立出雲高等学校（管理機関：島根県教育委員会）

【Ⅲ期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 運営指導委員会からの指導・助言に基づいて、研究の質向上や教員の指導改善など多岐にわたり改善を進めていることは、評価できる。
- 教員のSSHに対する意識の低下が見られることから、改善が必要である。
- 検証の方法が生徒の自己申告に留まっており、改善が必要である。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- 多くの教師が業務改善の必要性を感じており、研究の重点化・効率化を図る必要がある。
- 出雲高校の学びのスタイルの学校への浸透状況や、課題研究と通常授業との往還についての効果など、検証と公開を進めることが必要である。
- 研究テーマ設定に用いられる「Discover Insight Memo」（課題発見のためのツールで課題研究テーマの材料集めをサポートする生徒用のワークシート）の効果の検証とその公開が必要である。
- 教科間連携や授業改善に対する学習指導案の様式統一や、その全員提出などによる効果についての検証が必要である。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- 高大接続などもっと踏み込んだ取組に発展させる必要がある。

#### ④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 保護者の意識調査結果において、「よくわからない」などの回答が多いため、より積極的に情報を発信することが必要である。
- 開発した教材や活動内容・成果を、学校外へ向けたデジタルデータとして体系的に公開する取組が必要である。
- 成果を学校内で共有するためのデータベース「叢雲」について、他校での活用が進んでおらず、その効果的な運用と普及を改善する必要がある。
- 教材について一部公開されているが、より充実させることが必要である。

#### ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 高大連携推進員配置による成果として、高大連携だけでなく、近隣大学等との高大接続の取組を期待する。
- 管理機関が、本校のSSHの取組や成果について、中学生をはじめ県民に対し、丁寧に説明する必要がある。

## 1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

## 2 中間評価における主な講評

### ① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 運営指導委員会は適切に機能しており、評価できる。そこで受けた指摘について、短期的に取り組めるものはすぐに、長期的に取り組むべきことは構想を練って組織的に対応していくことが必要である。
- ルーブリック、生徒へのアンケート等に加えて、教員側の視点を含めた総合的な評価手法のさらなる検討が必要である。

### ② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- デュアル・クロスカリキュラムを実施することで、探究活動と他教科との連携や、教員間の意識共有が図られていることは、評価できる。このカリキュラムの成果を検証し、改良していくことが必要である。
- 生徒が主体となってテーマ設定ができるように様々な取組を充実させたり、授業を改善したりすることが必要である。
- 西高海峡ディスカバリー、夏休みディスカバリープロジェクト等の活動をどのように課題研究に繋げていくかの構想が必要である。

### ③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 大学や博物館等の地域の教育資源の利用や、先端科学技術に係る地元企業と連携する等、関門の地域的特色が反映された連携が積極的に進められていることは、評価できる。
- 科学部の活動の広がりや、国際科学オリンピックへの参加者の増加は、評価できる。
- 運営指導委員会において、「地域性や社会性が弱く、薄れてきている感じがする」との指摘があり、改善が必要である。

#### ④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- HP での教材、研究開発実施報告書やリーフレットの公開だけでなく、年に 20 回以上の広報誌の発行や SNS の活用など、幅広い対象に広報する取組は、評価できる。
- デュアル・クロスカリキュラムの取組等を他校に活用してもらうなど、積極的に情報発信することを期待する。

#### ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 教員人事や財政的支援について、具体的な方策がとられていることは、評価できる。
- 運営指導委員会での指摘を管理機関としてどのように生かして取組を改善していくのか、学校とともに具体化していくことが必要である。

## 1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

## 2 中間評価における主な講評

### ① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 生徒の進学実績と、教員の意識の変容が見られていることは、評価できる。
- 運営指導委員が生徒の課題研究発表も審査・指導していることは、評価できる。
- 卒業生の活躍状況の把握を工夫していることは、評価できる。
- 多様な取組が実践されており、必要に応じて取捨選択することを期待する。

### ② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 学校設定教科「スーパーサイエンス（SS）」を、普通科文系・商業科に新たに開設したことは、評価できる。
- 全教員が教科連携横断型授業を行っていることは、評価できる。
- すべての生徒に発表させ、学年・学科を超えた議論ができていることは、評価できる。
- 本校の卒業生が、サイバーメンタリングシステムを用いて生徒のメンタリングをしていることは、評価できる。
- 指導体制について、外部への依存が大きく、改善が必要である。

### ③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 愛媛大学の国際性を利用するなど、愛媛大学と連携していることは、評価できる。

### ④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち、特に程度が高い】

- 教科等横断型授業の指導案を公開していることは、評価できる。
- HPにおける成果発信は評価できるが、成果の普及に関してはHPのさらなる充実などの改善が必要である。

- 本校の取組が県内3校（愛光学園、八幡浜高校、三崎高校）それぞれで実践されており、その実績と成果について公開が必要である。また、実践している3校において、HP等で具体的な取組と成果を公表することを期待する。

#### ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 研究発表会を開催していることは、評価できる。

愛媛県立西条高等学校（管理機関：愛媛県教育委員会）

【Ⅱ期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- オールイングリッシュが取組の質を高めるものとなっているのか広く検証が必要である。
- 評価法としてAi GROWを活用するが、利活用の方法の検討や、効果の検証が必要である。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 物理・化学・生物・地学の4領域をバランスよく考えていることは、評価できる。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 市と深く連携が取れていることは、評価できる。
- 生徒主体で他校と共同研究を行っていることは、評価できる。

**④ 成果の普及等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 開発教材の公開について、一層の充実を期待する。

**⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 管理機関が本校に対し支援していることは、評価できる。

長崎県立大村高等学校（管理機関：長崎県教育委員会）

【Ⅱ期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ルーブリック評価に加えて、ポートフォリオ評価、パフォーマンス評価を取り入れようとしているなど、多面的な評価を開発・実践しようとしていることは、評価できる。
- 通常の実践の中での女子生徒への実践の充実を期待する。
- 評価項目の妥当性の検証も含め、大村高校として育成したい能力を評価できる指標を開発する必要がある。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 単元配列表を作成し、探究と各教科とのつながりを示していることは、評価できる。
- 「思考を深める問い」が教師の発問ではなく、生徒が立てる問いとなるよう検討を期待する。
- 課題を見いだし、授業改善につながるような評価手法を構築することが必要である。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 生徒が直接大学に質問できる窓口を開設していることは、評価できる。
- 外部人材の活用や地域との連携に積極的に取り組んでいることは、評価できる。

**④ 成果の普及等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- Web ページの継続的な充実が必要である。

**⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- SSH 指定校の運営に積極的に関与し、その成果の普及にも努めており、評価できる。

長崎県立長崎南高等学校（管理機関：長崎県教育委員会）

【Ⅲ期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 課題研究の指導に当たって、主担当と副担当の2名の複数担任制をとり、全教員の探究指導に対する当事者意識の高揚と教員の心理的負担の軽減を図っていることは、評価できる。
- 「ながさき探究プラットフォーム」が、大学・研究機関・企業や中学校との縦関係と、他の高校等との横関係からなる、生徒の課題研究の深化と地域の科学系人材育成の基盤となる連携支援組織として機能しており、評価できる。
- 取組に対する独自評価と外部機関との連携によるアセスメントを組み合わせ、客観性を持たせていることは、評価できる。
- 他校に異動した教員にも追跡調査を実施し、現任校において、SSHの成果を普及したり授業改善に役立てていることができていることは、評価できる。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 授業公開に外部からも参加を募り、授業改善に対する取組がなされていることは、評価できる。
- 2年生のSSHコース（Sクラス）とSSH科学部との関連を強化し、科学技術人材の育成を指向しているが、3年生でもSクラスを継続することを期待する。
- カリキュラムマップの作成によって、各教科の通常の授業と課題研究との往還について具体的で組織的な取組が行われており、内容的なトピックだけでなく、コンピテンシーとの関係にも配慮したものとなることを期待する。
- 授業デザインフォームを活用して、教科横断型・探究学習型・到達度型（Can-Do・To-Do）の授業実践が行われているが、計画と実際とのズレがないことを確認する方法の開発が必要である。

### ③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 「ながさき探究プラットフォーム」の構築により外部の協力を得る体制が整い、SSH 事業を展開しやすくなっていることは、評価できる。
- SSH 科学部と S クラスが連動し、研修会・フィールドワーク・学会発表・コンテスト参加等を通して科学技術人材の育成が計画されていることは、評価できる。

### ④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 未来デザインイノベーションフェアの開催により、SSH 活動の成果を広く公開し、課題研究や科学系部活動に取り組む SSH 指定校および SSH 指定校以外の県内高等学校の生徒が対面やオンラインでの交流を深める機会を提供していることは、評価できる。

### ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 管理機関が、教員の配置から事業の実施にいたるまでよくサポートしていることは、評価できる。
- 県 HP では SSH 指定校同士の接続のみに留まっているが、コーディネーターなどの支援によって、県内外の高校でも活用できる探究活動の資料提供となることを期待する。

【Ⅲ期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 成果を生み出せるように、組織改変を行っていることは、評価できる。
- 課題を明確にしている点は今後の改善が期待でき、評価できる。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 新任の教員に対して、探究の方法をきちんと伝えていることは、評価できる。
- 「科学と人間生活」の化学分野を核にして検討している点は興味深く、成果を期待する。
- 教材開発では、「地学」についても、充実することを期待する。

**③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 地元企業と連携し、商品の開発、販売まで行ったことは、評価できる。
- 多数の受賞など、活発な研究活動を展開していることは、評価できる。

**④ 成果の普及等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 多くの外部団体の視察を受け入れ、成果の普及に努めていることは、評価できる。

**⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 数学教員の加配に加え、理科の指導教員を2名配置していることは、評価できる。

鹿児島県立国分高等学校（管理機関：鹿児島県教育委員会）

【Ⅱ期3年目】のSSH中間評価結果について

**1 中間評価の結果**

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

**2 中間評価における主な講評**

**① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 手厚い組織体制、Ⅰ期における指摘課題への対応、「理数科の理念と手法をそのまま普通科に移植する」という考え方に基づき、全校体制が構築されていることは、評価できる。
- 生徒自身の自己調整学習と課題研究の継続性がうまく機能していることは、評価できる。
- 自己調整学習として楽しく続けられる方法で運用されており、自主ゼミや探究コミュニティ等の自発的な活動が生まれてきていることは、評価できる。
- 5観点でのルーブリックが経年でブラッシュアップされており、1年次から3年次までの生徒の変容が数値化され、効果と課題について適切に定量的に検証されていることは、評価できる。
- 卒業生の人材バンクを設置し活用していることは、評価できる。
- 運営指導委員会のジェンダーバランスについて、改善を期待する。

**② 教育内容、指導体制等に関する評価**

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 1年次から3年次までの経年での深化・拡充のカリキュラムの改善、統計学的な観点も踏まえた上での文理融合型の課題研究を取り入れるなど、教育課程が工夫されていることは、評価できる。
- PDCAとOODAの併用、大学進学実績の向上、外部人材の活用による指導体制の充実や、指導方法について校内研修に加えて大学と共同研究を行い、その成果を国際学会で発表する例が出ていることは、評価できる。
- 地域性から、学校設定科目「Glocal Science」の基礎となる科目として地学基礎も加えることを期待する。

### ③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち、特に程度が高い】

- 部活動、自主ゼミなどが活発に行われ、科学コンテスト等での入賞実績や、地域の行政・企業との連携の多様化は、評価できる。
- ジェンダーギャップ問題に対して積極的な取組がなされていることは、評価できる。
- 将来の仕事についてのアンケート結果において、研究職へ肯定的な回答のうち3年生女子の割合が極めて高く、取組の成果として評価できる。

### ④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 運営指導委員が学会でSSH活動について発表するなど、運営指導委員が、助言するだけでなく積極的にSSH事業に関わっていることは、評価できる。
- 発表会を年に複数回実施、論文集を共有ドライブ上に掲載、継続研究を促す企画など様々な工夫されていることは、評価できる。
- HP上の共有のみならず、メディアを通じた普及も努力していることは、評価できる。
- 自己効力感が生まれる方法について、他校に普及することを期待する。
- 女子生徒に対するキャリア支援について、他校の参考になる点も多くあると考えられるため、取組や成果をさらに広報することを期待する。

### ⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- SSH指定校において高度な課題研究の指導力を有する教員が適切に配置されており、異動があっても継続して質が保証されるような運営を学校とも連携しながら行っていることが成果につながっていることは、評価できる。
- 女性の科学技術人材育成に対する取組について、学校と密に連携をとり進める努力がなされており、県として支援体制が整っていることは、評価できる。
- 離島の学校に対しても、本校の成果の普及展開を強く支援していることは、評価できる。
- 中学校との連携協定も進めていることは、評価できる。